

教職大学院で実践的指導力をつけよう

教育実践開発講座・教授

安藤 輝次

■ どうして教職大学院が必要か

今やモンスターペアレントが話題になるほど、保護者が学校に無理難題要求をすることもあります。一人ひとりの子どものニーズに応え、学力批判にも耐える授業ができ、表現力や思考力を育てることが求められています。このように学校の先生の仕事は、決められたことを決められた手順でやればよいという単純なものではありません。

では、どのようにすればこれらの現代的な教育課題に応える教師の実践的指導力は身につくのでしょうか。教師は、実践を重ねれば、自然と力量が形成されるわけではありません。もしもそうであれば、教職経験を積んだ人は誰でも「優れた教師」になっているはずですが、現実にはそうなっていない。力量のある教師とない教師との違いは何かというと、一つには教育実践を分析し検討する切り口として理論的な枠組みを持っているかどうかということでしょう。

しかし、教育の理論を知っていれば、優れた実践ができるというのも誤りです。同じ子どもでもその時々状況でまったく別の姿を見せるように、個々の教育実践は、個性的で一回限りのものであり、実践で出会う問題を解決するものでも特殊な条件を考慮せざるを得ないからです。既成の理論がまったく当てはまらない教育現実に遭遇することも珍しくありません。自分

や他の教員が行った優れた教育実践を集めて紡ぎ、その根底にある理論を見出して、実践に往還させるという柔軟な頭が必要になります。

このような新しい教育要求に応じて、実践的指導力のある教員を養成しようとするのが、平成20年度から発足する奈良教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程（以下「教職大学院」と略す）です。教職大学院設置に当たっては、これまで奈良県教育委員会と協議を行い、奈良市・大和郡山市・生駒市・天理市の小・中学校とも連携協力のパートナーシップを結び、力量のある教員を養成するための準備を進めて来ました。そして、全国に先駆けて、来春、2年制を基本とする教職大学院を開設する予定です。（設置申請中）

■ 確かな実践的指導力をつける 手立てが満載

図に示すように、院生は、「共通5領域」それぞれ（①教育課程の編成・実施、②教科等の実践的指導方法、③生徒指導・教育相談、④学級経営・学校経営、⑤学校教育と教員のあり方）に設けられた科目から少なくとも2科目18単位を履修しなければなりません。「深化を図る科目」では、特別支援教育や保護者対応など新しい教育要求に応える授業科目が設けられています。これらを見ても、現行の教育学研究科の授業科目とは違うということ

が分かるでしょう。

◇ 理論と実践の往還の鍵となる「実践科目」

本学の教職大学院の一つの特徴は「実践科目」19単位のうち「実習科目」12単位を履修し（現職教員の院生は8単位まで免除することがある）、大学院で学んだことを小・中学校で確かめ、課題を見つけて、解決して、教員としての資質や能力を高めようとしていることです。

もう一つは、「演習科目」として、「ポートフォリオ」「アクションリサーチ」「ケーススタディ」「授業省察」の4科目（各1単位）を必修として学び、学校での実習内容と関連付けていることです。この演習科目は、他の教職大学院のどこにもない画期的な試みです。

さらに「研究科目」の中にある「実践理論研究」（1単位）も本学独自に設置した科目です。これは、学外の学会や研究会への参加発表を単位化したもので、修了までに最低1単位は必修としています。

◇ 目指す教師像の資質能力の獲得を 確かなものとする

本学の教職大学院では、院生は、次の4つの教師像から一つを選び、授業科目を履修し、目的意識的な学びを実現しようとしています。

〈計画者・授業者としての教師〉

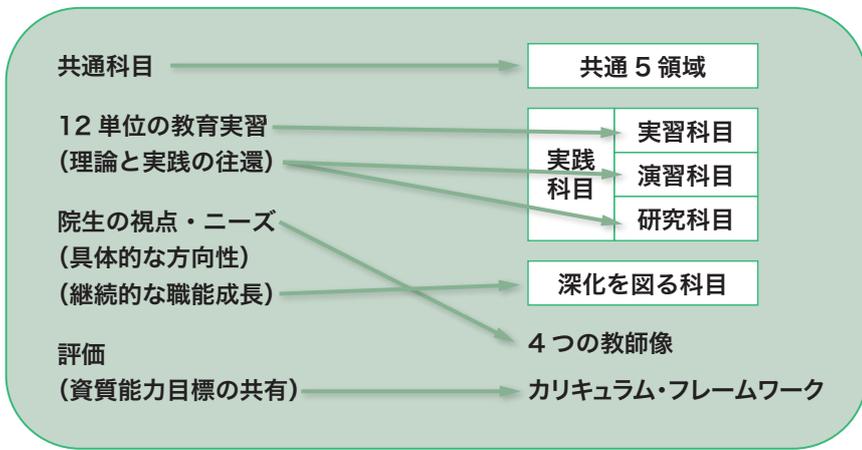
課題の解決・達成に向けた多様な方法を駆使できる。学級経営や生徒指導を根拠にした授業改善に取り組む。

自分の授業を分析的に考察し、その改善を図る。

〈教科の専門性に強い教師〉

専門的な知識・技能等を実践の場に生かす。教科の面白さ、楽しさ、有用性を伝えることができる。

教職大学院



〈カウンセラーとしての教師〉

生徒理解・学力評価・生徒指導の多様な方法を知っており、実践の場に生かすことができる。

〈リーダー・調整役としての教師〉

生徒・保護者・同僚にも自分の指導の方針について分かりやすく説明できる。

学校教育の改革推進、調査研究推進に係わって、教職員のリーダーになりうる。

しかも、それぞれの授業科目は、図に示すように、教師像に係わる資質・能力と関連付けられて、目標化しており、修了時には一定レベルまですべての院生が到達するようにします。

すでに「専門職大学院等教育推進プログラム」で試行中

実は、平成19年10月から文部科学省の「専門職大学院等教育推進プログラム」の採択を受けて、「学校問題ネットワーク構築による大学院教育」と題して教職大学院の演習科目の充実のための実践を行っています。財政的バックアップを受けた教職大学院の先行実践をしている大学は全国的にも珍しく、本学に対する期待の大きさを感じ、心を引き締めているところです。

このプログラムは、生徒指導や教科指導の学校問題の解決に向けて、県内の関係機関や研究会と連携して、組織的に対応できるプランナー、コーディネーターとしての力を院生に培う演習科目のプログラム開発を目指しています。本年度は、教職大学院就任予定の教員が現行の大学院教育学研究科の院生6名と一緒に、生徒指導や教科

		教師像			
		1. 指導者としての役割	2. 調整者としての役割	3. 実践者としての役割	4. 研究者としての役割
開講予定科目	共通科目	○	○	○	○
	実践科目	○	○	○	○
	演習科目	○	○	○	○
	研究科目	○	○	○	○
	深化を図る科目	○	○	○	○
	4つの教師像	○	○	○	○
	カリキュラム・フレームワーク	○	○	○	○
	評価	○	○	○	○
	資質能力目標の共有	○	○	○	○
	院生の視点・ニーズ	○	○	○	○

教育の県内機関や研究会を訪問して、具体的な事例を収集しています。皆さん、来年度は教職大学院生(定員20名)となつて、このプログラムを私たちと協働で推進していきませんか。

最後に、奈良教育大学教職大学院の募集人員、学力検査日、出願期間をお知らせします。

学力検査日及び募集人員(予定) ..

(A日程) 平成20年1月12日(土) 20名

(B日程) 平成20年3月15日(土) 若干名

出願期間 ..

A日程 平成19年12月12日(水)

B日程 平成19年12月18日(火)

平成20年2月28日(木)

平成20年3月3日(月)

※詳しくは奈良教育大学入試課にお尋ね下さい。

Tel. 0742-2719126